

高温による品質低下が懸念されます 葉色が薄い場合は、追加の穂肥を！

- 出穂期の葉色が薄いと、高温気象の影響を受け白未熟粒が増加し、品質低下します。
- 2回目の穂肥施用後も葉色が薄い場合は、3回目の穂肥を施用しましょう。
- 全量元肥一発肥料を使用している場合も**、葉色が低下している場合は、追加の穂肥を施用しましょう。

1 追加穂肥の施用

葉色のめやす：葉色が、SPAD値33以下のとき、

又は、葉色板(群落)3.5以下のとき

散布時期：出穂期3日前(走り穂が見られる状態)まで

散布量：窒素成分1.0kg/10a

(使用する肥料は、JA・農業普及指導センターにご相談ください)

2 農業用水について

- 出穂前後10日間は稲が最も水を必要とする時期であり、できる限りほ場に水を供給しましょう。
- 農業用水は、地域内・農家間で協力し、地域全体として効率的に使用しましょう。
- 台風などの強風やフェーンが予想される場合は、事前にできるだけ深水管理としましょう。

- 農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。
- 農作業事故に注意しましょう。特に、草刈り作業は周囲に気を配りましょう。

※ 穂肥診断等の詳しい資料は指導会資料(営農センター、振興局HP等)をご覧ください。携帯メール会員募集！営農センターへお問い合わせください。